

特集
Special Section

文部科学省の

「研究大学強化促進事業」に採択!

世界レベルの研究拠点たる
リサーチ・ユニバーシティ岡山大学を推進

- 岡山大学から世界へ、グローバルに活躍する卒業生
植月 啓太 さん ナカシマメディカル株式会社 開発部
- 研究室訪問 宇塚 万里子 言語教育センター 准教授
- きらり岡大生 松本 亮 マッチングプログラムコース2年 国際バカロレア入試で入学
- 「Junko Fukutake Hall」が鹿田地区にオープン
- 言語カフェ「L-café」来場者が1万人を突破
- 中・四国地方初の脳死心臓移植が無事終了
- 【寄稿】 医者と工学者が二人三脚「岡大方式人工網膜」
- News & Topics 大学の動き／研究・臨床成果
- 岡山大学ホームカミングデイ 2013 開催
- YouTube に「岡山大学チャンネル」を開設



マスカットユニオン周辺を彩ったイルミネーション

「文部科学省の研究大学強化促進事業」に採択！

世界レベルの研究拠点たる

リサーチ・ユニバーシティ岡山大学を推進

岡山大学は今年8月、文部科学省が大学の研究力向上を目指し本年度創設した「研究大学強化促進事業」の支援対象機関に採択された。今年度から10年間にわたり毎年2億円の助成を受け、大学全体の研究環境整備に取り組み、山本進一・研究担当理事に採択に至った思いや今後の具体的な活動方針・目標について聞いた。

世界で研究の量、質とともに 存在感を示す大学に

一定の理解を有しつつ研究資金の調達・管理、知財の管理・活用などを行う人材が十分ではないため、研究者に研究活動以外の業務で過度の負担が生じている状況にあり、改善するため文部科学省は2012年に「リサーチ・アドミニストレーター（URA）」を育成・確保するシステムの整備」を始めた。URAの運用はそれによるところが大きい。岡山大学は自己資金でURAを採用し、同年9月、リサーチ・ユニバーシティ・岡山大学」という地位を確立するための研究方針の策定や大学改革の推進支援を役割とし、経営的判断に立って行動する「戦略的プログラム支援ユニット（URA）」を設置した。同事業採択においては申請のための情報収集やデータ解析、申請書作成、ヒアリング対応などでURAが果たした役割は極めて大きく、URAがいなければ採択されなかったと言っても過言ではない。

具体的な活動方針は

岡山大学が世界においてトップレベルの大学となるためには、現在の岡山大学が持つ強みを生かすことが重要だ。すでに実績があり、世界レベルの研究分野である物理学と基礎生命科学を軸とし、「極限量子」「超伝導・有機エレクトロニクス」「生体光変換システム」の3つの研究拠点をフロントとして強めながら、新設する研究特区「グローバル最先端異分野融合研究機構（G研究機構）」を中心に研究に専念できる制度

文部科学省の「研究大学強化促進事業」に採択された。どうとらえているか。

同事業は世界水準の研究力を持つ大学・機関を強化することで国際的な地位が低下している日本の研究競争力の向上を図る狙いで、支援対象に22の大学・機関（17国立大学、2私立大学、3研究機関）が採択された。岡山大学が選ばれ、研究担当理事としては正直ほっとしている。中四国地方では岡山大学と広島大学だけであり、より研究に重点を置くというミッションが文部科学省に認められたということはある意味で岡山大学の研究ブランドが確立されたといえるだろう。今回の選考方法は文部科学省が行ってきたこれまでの競争的資金制度におけるそれとは異なり、誰もが自由に応募できるものではなく、科学研究費等の資金獲得状況、論文の引用度、国際共著論文の数、産学官連

促進事業では基礎研究を、臨床研究中核病院整備事業では研究による社会貢献を、COI STREAMでは研究による産学官連携をそれぞれ強化していきたい。文部科学省の「共同利用・共同研究拠点」に認定されている資源植物科学研究所（植物研、倉敷市）、地球物質科学研究センター（地球研、鳥取県三朝町）

採択決定に尽力したURA（リサーチ・アドミニストレーター、University Research Administrator 略）とは。

大学などにおいて研究者とともに研究活動の企画や研究成果の活用促進などを総合的にマネジメントできる研究開発に知見のある人材のこと。日本の大学・機関では、研究開発内容について

リサーチ・ユニバーシティ・岡山大学の 実現に向けて。

改革、研究者支援人材としてのURAの増強や実力のある研究員の招聘、国際共同研究の推進、産業界との大型連携の強化などに取り組み、研究活動の一層の活性化につなげる。特に物理学、基礎生命科学分野においてはその強みを伸ばして世界で量（論文数）、質（相対被引用度）ともに存在感を示し、日本の研究活動の牽引大学になることを目指す。そして、その成果を全学的に波及させることにより、岡山大学全体の研究力を向上する仕組みを構築したいと考える。

岡山大学には磨けば光る「宝石」が数多くあり、今後の伸びが大いに期待できる。幸いにも岡山大学はSpringer X線自由電子レーザー施設SACLA、スパコン「京」など国家基幹技術の施設に近く、その分野の研究も行われており、それを生かさない手はない。同事業をはじめ、今年4月には岡山大学病院が厚生労働省の「臨床研究中核病院整備事業」に、10月には岡山大学のアドバンストナノカーボン複合構造材料研究開発センターが文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）」に採択された。この3つすべてに選定された大学は全国で7大学（厳密には8大学）だけだ。とても誇らしいことであり、研究力強化の「三本の柱」がそろったわけで、研究大学強化



戦略的プログラム支援ユニット

岡山大学 URA

● URA (リサーチ・アドミニストレーター、University Research Administrator) の古矢修一氏、沼口徹氏に聞く——
自律的な
戦略的研究支援職員

— 取り組むべきミッションは。

5つのミッションがあるが、第一には「リサーチ・ユニバーシティ」岡山大学の実現だ。岡山大学は「研究大学強化促進事業」の支援対象機関に採択されたが、それによって実現したわけではなく、実現への必要な条件が満たされたにすぎない。がんの克服、温暖化やエネルギーの枯渇対策といった社会がまさに解決しなければならぬといわれている大きな課題などに向き合いたい。そのためには研究のグランドデザイン構築の支援を行い、他大学や他研究機関とネットワークを組み、広域連携による大型プロジェクトの研究体制の起動、国家レベルの大型研究プロジェクトの提案を支援する。そして、URAとしてふさわしい人材を確保・育成し、研究支援が持続可能な組織をつくることもミッションだ。



— それを達成するための具体的な役割は。

学内のファンダメンタルなシーズを見つけ、その研究者の志向と社会のニーズを把握し、双方にとって最もインパクトのある成果が得られる仕組みを構築する。ファンディングエージェンシー（文部科学省や日本学術振興会など研究助成を行う機関のこと）と深くかかわり、新規助成・研究計画などの情報をいち早く入手し、あるいは逆に働きかけ、研究者とともにそれを形にして競争的資金を確保することが求められる。また、新たな市場創出への道筋を考え、大学として発信する学術シーズを次のプレーヤー（企業など）にシームレスに引き渡すプロモーターとしての役割もある。個々の研究者の研究活動を調整しながら研究者同士を繋ぎ、学長を補佐しつつ経営的判断に立って研究環境の改善や大学改革の起案・遂行にも携わる。岡山大学 URA は他大学に比べ、自律的な戦略的研究支援職員という立場で研究力向上や大学運営に直接的役割を果たすことに特徴がある。

— 研究推進産学官連携機構との違いは。

同機構は大学全体の研究者の底上げに着目した活動を行う。学術研究の成果である知的財産を組織的に管理・活用したり、大学の研究シーズが社会へ形となって届くよう産学官連携を推進する。URA は同機構で底上げされる研究のう

ちトップ研究者の研究をさらに伸ばすことに着目した活動を行う。その意味で同機構と URA はシームレスな連携のもとに運営されており、大学の研究力向上に協働する。

— 「研究大学強化促進事業」採択決定の決め手は。

岡山大学は以前から論文書誌情報に基づく研究力の強みや弱みを客観的に把握することに注力しており、論文書誌情報分析のインフラが整っている。同事業採択後ではあるが、全国に先駆け附属図書館で電子ジャーナルやデータベース、オンライン文献管理ソフトなどの

University
Research
Administrator

URA

ソーシャルメディアにおける研究成果への反応をリアルタイムで収集し、そのインパクトを定量的に表示する新しい研究評価指標「altmetrics」を導入している。われわれは構築されているインフラを利用して新たな切り口からデータ解析を行ったわけで、もとのツールがなければユニークな解析も行えなかつただろう。

— 今後の展望は。

戦略を立てるだけでなく助成金の獲得、新たな研究員の雇用、論文数の増大など、企業にいた経験を生かしてきちんと結果を残さなければというプレッシャーはある。どの研究者がどのような

研究を行っているかを把握し、20、30年後の世界の変化も考えながら若手研究員のサポートにも力を入れたい。岡山大学は旧帝大に比べて大学院博士課程に進む学生が圧倒的に少ない。新産業を起こすような研究シーズを育て他大学にない強みを持つことで「岡山大学でもっと研究を続けたい」と思う学生を増やし、その学生が大学をより高めていくことにつながればと思う。岡山大学の卒業生は「伸びしろが大きい」との定評も聞く。URA を大いに活用していただき、世界で認められる岡山大学を目指したい。

岡山大学 URA 紹介



シニアリサーチ・アドミニストレーター
 担当：国際最新医療・創薬分野

■古矢 修一氏

武田薬品工業（株）で31年間、新薬研究開発やがん領域戦略の立案などに従事。元内閣官房知的財産戦略推進事務局政策参与。薬剤師、薬学博士。



シニアリサーチ・アドミニストレーター
 担当：革新的材料・活用技術分野

■沼口 徹氏

東洋エンジニアリング（株）で25年間、研究、プロセス開発などに携わり、精密フィルターなどの開発・販売を手掛ける日本ボール（株）で10年間、バイスプレジデントとして技術部門を統括。工学博士。



リサーチ・アドミニストレーター
 担当：国際最新医療・創薬分野、人文・社会科学分野

■佐藤 法仁氏

公務・企業で研究、開発投資などに従事。博士（歯学）。



リサーチ・アドミニストレーター
 担当：革新的材料・活用技術分野、国際技術移転分野

■宇根山 絵美氏

大学及び化学系企業で研究開発などに従事。Ph.D.



ナカシマメディカル株式会社 開発部 ◆岡山大学工学部卒 自然科学研究科博士後期課程修了

植月 啓太

U E T S U K I Ke i t a

「何か形あるものを作ることで医療に関わりたい」と、人工関節開発の世界へ。一貫した患者目線の姿勢で日本とアジアの医療への貢献を見据える。

- ▶うえつき けいた (31歳)
- 1982(昭和57)年 岡山県津山市出身
- 2005(平成17)年 岡山大学工学部生物機能工学科卒
ナカシマプロペラ株式会社入社
同社 メディカル事業部 開発部 薬事・品証グループ
- 2008(平成20)年 岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程入学
ナカシマメディカル株式会社へ転籍(分社化に伴う)
- 2009(平成21)年 同社 開発部 開発グループ
- 2011(平成23)年 岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了 博士(工学)取得
- 2012(平成24)年 同社 開発部 開発グループ 主任研究員(現任)
千葉大学フロンティアメディカル工学研究センター 特別研究員(現任)
同社 総合企画部 プロダクト企画 プロダクトマネージャー(現任)

「最適注生産」の文化はグループの中核企業ナカシマプロペラから引き継いでいます。ナカシマプロペラは、船の大きさ、積み荷などによって船一隻ごとに最適なプロペラを作る「最適創造」の考えの下にあり、ナカシマメディカルも「良い物を作る」ことに強い思いを持っています。患者さんへの「最適な医療の提供」を目指し、これまでも人工関節の形状や機能が「最適」となるよう、デザインや素材、技術の開発を絶え間なく行ってきました。

最適製品を提供
ひび、股関節など関節疾患の治療に使う人工関節を開発しています。耐久性を高めるため、私が開発の中心を担ったヒタミンEを混合したプラスチック製の人工関節材料は、3月に厚生労働省から承認を得て、8月から臨床使用が開始となりました。高齢化を背景に人工関節の手術件数はこの10年間で約2倍に増加しており、すり減りや劣化しにくい素材の追求など課題は尽きません。

医師が求める製品性能を確保すべく、多種多様な人工関節を開発してきました。この「品受注生産」の文化はグループの中核企業ナカシマプロペラから引き継いでいます。ナカシマプロペラは、船の大きさ、積み荷などによって船一隻ごとに最適なプロペラを作る「最適創造」の考えの下にあり、ナカシマメディカルも「良い物を作る」ことに強い思いを持っています。患者さんへの「最適な医療の提供」を目指し、これまでも人工関節の形状や機能が「最適」となるよう、デザインや素材、技術の開発を絶え間なく行ってきました。



人工膝関節(左)と人工股関節(右)▲

立ち会いで責任痛感
開発した人工股関節が初めて使用される手術に立ち会った時、責任の重さを痛感しました。多くのデータ収集や実験、様々な人の議論を通じて完成させた製品で絶対の自信を持っていました。それでも、実際に患者さんの体内に埋められる時には、「患者さんの生活を左右する」といっても過言ではない仕事をしていくのだ」ということになりました。

立ち会いで責任痛感
開発した人工股関節が初めて使用される手術に立ち会った時、責任の重さを痛感しました。多くのデータ収集や実験、様々な人の議論を通じて完成させた製品で絶対の自信を持っていました。それでも、実際に患者さんの体内に埋められる時には、「患者さんの生活を左右する」といっても過言ではない仕事をしていくのだ」ということになりました。

日本とアジアの医療に貢献
日本で使われる人工関節のうち9割近くは外国メーカーの製品。これらは外国人の大きい骨格や欧米の生活様式を考慮して設計されています。

笑顔で暮らせるように
医療に携わる上で「患者さんのために」という意識を常に持ち、そのことにやりがいを感じる日々を送っています。今後、ますますの高齢化が見込まれる中、「いかに健康に生きるか」は大きなテーマ。ただ寿命が長くなるだけでなく、健康で楽しく明るく生きるため、「歩けるようになりたい」「大いに趣味を楽しみたい」という多くの方の期待に応えたい。一人でも多くの人が笑顔で暮らせるように、患者さんの目線に立った製品開発を進めていきます。

医療の進歩へ 新たな人工関節



■ナカシマメディカル
本 社：岡山県岡山市
事業内容：人工関節、骨接合材料等の医療機器の開発、製造、販売
従業員数：175人(平成25年12月16日現在)
創業1926年の船舶用スクリューメーカー(ナカシマプロペラ)の加工技術を活用して人工関節という新たな分野に参入。2008年9月の分社化を経て誕生

「高度な知の創成と的確な知の継承」。岡山大学の理念のもとに教育・研究を展開する個性あふれる教員たち。研究室を訪ねる。

UZUKA Mariko (46歳)
 ▶1967年 横浜市生まれ
 ▶1991年 上智大学文学部史学科 卒業
 株式会社日本旅行勤務
 ▶1997年 米国ハーバード大学語学研修所ビジネスコミュニケーションコース修了
 ▶2000年 米国インディアナ州立大学で経営学修士取得
 ▶2002年 NCN米国大学機構 スチューデントアドバイザー
 ▶2008年 ボストンオリエンタルコンネクションズ社 不動産マーケティングリサーチ
 ▶2009年 岡山大学言語教育センター 准教授



宇塚万里子

言語教育センター准教授

スタートライン

L-caféの中心で学生を会話に引き込む宇塚准教授。流暢な英語と天性の明るさで、日本に馴染めないでいる留学生や英語を話すことに躊躇している日本人学生を自然に会話に誘う名人だ。「下手でもちつとも構いません。大事なのは、やってみようという気持ち」と宇塚准教授。自身もかつては英語が大の苦手だったという。しかし、社会人になって英語で何かを学びたいと28歳で単身渡米。猛勉強に励み、インディアナ州立大学で経営学修士号を取得し、米国で就職。気がつけば10年が経過し、日常的に英語を使うようになっていた。「とにかくやってみようと飛び込んだけれど、今思うと、英語を学ぶことがその後の人生のスタートラインとなった」と振り返る。「やる気があれば苦手な英語でも話せるようになる。言葉が原因でやりたいことを諦める学生をなくしたい」と願う。

新たな学びの場

毎日150人以上の留学生と日本人学生が交流しながらさまざまな言語や文化を学んでいるL-café。学部や学年、国籍を超えてイベントを企画し、互いの国の料理を食べ比べるなどユニー

ソーシャルラーニングスペース「L-café」で学生同士の関わりから生まれる学びを研究

グローバル人材育成と異文化理解を深化・活性化し、より多くの学生にソーシャルラーニングの機会を提供するため今年5月、津島地区にオープンした「L-café (エル・カフェ)」。前身の「イングリッシュ・カフェ」から管理・運営に携わり、ソーシャルラーニングスペースが学生の語学習得にどう影響するかを研究している言語教育センターの宇塚万里子准教授を訪ねた。



クな活動を行っている。留学生や留学経験のある日本人学生が英語を教える「スチューデント・ティーチャー」は、宇塚准教授の発案。単位を習得できる正規の授業ではないが、教える側の熱意がダイレクトに伝わり満足度は非常に高い。これまで学んだ英語をコミュニケーションのツールとして実践できるスペースを、宇塚准教授は「学生同士の関わりで言語が習得できる新たな学びの場」と位置づける。

成果も挙がっている。L-café利用者のTOEICテストの平均スコアは、過去4年間で115.2点上昇。学生の積極的な学習はもちろん、L-caféで他の学生から刺激を受け、英語が飛び交う環境に身を置くことで、いつの間にか理解を深めているという。外国へ留学する学生もイングリッシュ・カフェ開設の2009年から約3倍に増加するなど波及効果もみられる。

グローバル人材の育成へ

日本について学び、日本の友人をつくりたいと願う留学生にとって、L-caféは多くの日本人学生と触れ合える場所。宇塚准教授は、こうした交流をグローバルで活躍できる人材の育成につなげようと知恵を絞る。世界の情

勢を伝えるニュースを題材に、その国の留学生に「家族はどうしているのか」「あなたはどっからか」と問い掛け、学生目線で考える。「世界で活躍するにはさまざまな国の実情や価値観といったバックグラウンドを理解する必要がある」と話す。

自国の文化や言葉、政治などを理解し、誇りを持てる人材を育てたい。宇塚准教授をはじめとする教職員らの熱意が、着実にL-caféを成長させてきた。「日本に留学するなら岡山大学がおすすめ。なぜなら、L-café(イングリッシュ・カフェ)があるから」とは実際に海外で聞かれた声。L-caféは今、学内外で一層の存在感を放ち始めている。



在学生紹介

研究、スポーツ、趣味、特技...
学内外のさまざまな場面で活躍する岡大生たち。
そんなキラリと光る学生を、
同じ学生の目線から紹介する。

松本 亮

MATSUMOTO RYO

マッチングプログラムコース2年



インターナショナルスクールの実験室▲

国際バカロレア入試で MPコースに入学

学部や学科の枠にとらわれず、
自分にあったプログラムを

「将来は英語力と国際性を生かし、専門分野で働きたい」と話すのは、岡山大学に国際バカロレア入試で入学した松本亮さん（マッチングプログラムコース2年）。松本さんは、高校時代3年間をオランダのインターナショナルスクール（国際学校）で過ごし、2012年4月、岡山大学のマッチングプログラムコース（MPコース）に入学した。インターナショナルスクールでは、生徒が40か国以上から集まっており、授業もすべて英語で行われ、「世界の縮図のようだった」という。

松本さんは高校2年生まで日本で過ごした後、オランダのインターナショナルスクールに1年生から入学し3年間学んだ。日本の高校ではもともと文系だった松本さんだが、オランダでは、教科書に載っている実験をすべて

行うことができ、理系のおもしろさに気付いた。文系と理系の両方に興味を持ちながら、日本での大学進学を考える松本さんに、担任の先生が勧めたのが岡山大学MPコース。学部や学科の枠にとらわれず、自分自身にあった履修プログラムを作成して学ぶことができるという独自の教育プログラムに、松本さん自身も魅力を感じた。また、松本さんが受験する年、岡山大学が日本の国立大学で初めて国際バカロレア入試を取り入れたことも大きな後押しとなり、MPコースに出願。見事合格を勝ち

取った。現在は、農学部や理学部などで生物系の学問について学んでおり、「MPコースの16人は文系の枠を超えて様々な学生が集まっているので、いろんな考え方を知ることができているのが魅力だ」と語る。興味のある学問を好きなだけ学べるというMPコースならではの醍醐味を満喫している。

オランダでの経験を生かし、ボランティア活動にも力

また松本さんは、岡山大学の学生や教職員を中心に、被災地への復興支援を行う団体「おokayまバトン」の副代表を務めている。おokayまバトンは、「息の長い復興支援」を目的とし、被災地から遠く離れた岡山で、学生らしい「被災地支援の在り方を考え、毎週20人ほどで会議を行う企画を考えている。

おokayまバトンに入るきっかけになったのは、高校時代の経験。オランダの高校は卒業要件としてボランティアが組み込まれており、決められたプログラムの中で行っていたボランティアであるものの、「やっているときは大きな充実感があった」という。



その経験から、岡山大学に入学してからもボランティアがしたいと思い、おokayまバトンで活動し始めた。

松本さんは、副代表としてみんなをまとめなければならぬプレッシャーを感じながらも、「同じことの繰り返しではなく、今までとは違う新しいことかもしれない」という思いを持って日々、活動に取り組んでいる。「新しいことをするには大きな苦労があるが、だからこそ達成感を味わえる」と語る松本さんの表情には強い意志が感じられる。この冬も、宮城県の中学生を1週間受け入れるプログラムを企画し、成功させようと意気込んでいる。

国際バカロレア入試

国際バカロレア機構が定める国際的に標準化されたカリキュラムを履修し、最終試験に合格した者に与えられる大学入学資格「国際バカロレア資格 (International Baccalaureate Diploma)」取得者を対象に、書類選考のみ（一部学部・コースを除く）で入学資格を与える入試。岡山大学では、平成24年度入試から「国際バカロレア入試」を実施。全国の国立大学に先駆けて国際バカロレア資格取得者を積極的に受け入れることで、教育目標の柱の一つである「異文化理解に基づいた国際性の獲得」の資質とともに、優れた学力を備えた学生の確保・育成を目指している。



インタビュー
岡山大学学生広報スタッフ
文学部人文学科2年
岡村 優衣



▲オランダのアムステルダム市街地



岡山大学病院は12月7日、拡張型心筋症の10代少女に脳死下心臓移植手術を行い、無事終了した。(ドナー：10代男児、提供施設：長崎医療センター)中：四国地方での脳死下心臓移植手術は初めてで、15歳未満の子どもからの脳死移植は国内4例目。

手術は、大学院医歯薬学総合研究科の佐野俊二教授(心臓血管外科)ら移植チームによる約30人体制で、同日午前8時35分から11時57分まで実施。手術後の会見で、佐野教授は、「提供された臓器の状態が非常に良かった。拒絶反応や感染症などに細心の注意を払う必要があるが、順調に回復すれば2、3カ月後に退院できる見込み」と話した。少女は、拡張型心筋症のため、内科的治療の限界により移植の方法しかないと判断し、



▲ヘリコプターで到着した心臓を運ぶスタッフ

中・四国地方初の 脳死心臓移植が無事終了 国内4例目

心臓移植手術の様子▼



2011年7月に臓器移植ネットワークに登録、待機していた。これまで3例ある15歳未満の子どもからの脳死心臓移植は、東京大学医学部附属病院と大阪大学医学部附属病院で行われているが、岡山大学病院での手術が無事に実施されたことで、中・四国地方に住む同じような状況の患者さんにとって遠方へ治療に赴く経済的・精神的負担が軽減されることになる。

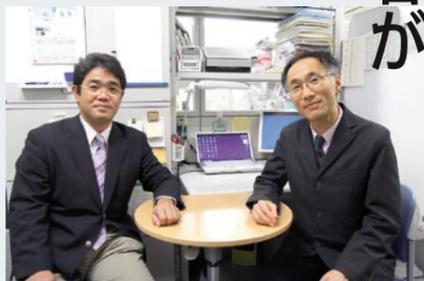
文●松尾俊彦/医歯薬学総合研究科(医)准教授
内田哲也/自然科学研究科(工)准教授

岡山大学方式 人工網膜

他施設が開発している人工網膜は電極の集合体を使った方式であるのに対し、岡山大学方式は光電変換色素をポリエチレン・フィルムの表面に化学結合させています。このため薄く、柔らかいので、丸めて眼球内の網膜下に挿入できます。電極からの電流の出力ではなく、光電変換色素分子による電位差の出力によって近接する網膜神経細胞を刺激するのが大きな特徴です。



この動きに注目してくださった網膜色素変性の患者会からの依頼で12月1日、医歯薬学総合研究科(医)の松尾俊彦と自然科学研究科(工)の内田哲也が人工網膜について講演しました。臨床については眼科医である松尾、製造については高分子材料学が専門である内田が話しました。こうした講演会は今年2回目、この日も、患者さんやご家族から熱心な質問を多くいただき、人工網膜に寄せられる強い希望を感じました。岡山大学が持つ知の蓄積と人の輪で、医師主導治療を進め、この期待に応えたいと思いつつ、帰路に着きました。



▲連携して研究に取り組む内田准教授(左)と松尾准教授

Contribution 寄稿

医者と工学者が 二人三脚

「岡山大学方式 人工網膜」は、2004年の「いちよう並木」22号で紹介されました。あれから10年近く、医学部と工学部との「医工連携」で研究を進め、工学部で改良を重ねて最終完成製品を製造しています。患者さんに参加いただく治療の入口までたどり着きました。今年4月に岡山大学病院が厚生労働

1 TOPICS 「Junko Fukutake Hall」が 鹿田地区にオープン

地域に開かれた大学を目指し、人が集う場に



Jホールは、建築界のノーベル賞と称されるプリツカー賞を受賞し、仏・ルーブル美術館別館などを手がけた建築家ユニット「SANAA(サナア)」の設計。白を基調としたガラス張りの開放的なホールで、大きく張り出した軒が建物内と外の間領域を作り、四方に広がっていく空間が特徴。「地域に開かれた大学」をイメージしており、医学部正門を入ってすぐ西に位置している。傾斜の異なる7枚の屋根の下には、カーテンでゆるやかに仕切ることができ、レクチャーホールや小ホール、コモンズスペースが設けられた。



▲福武純子氏(右)から目録を受け取る森田学長



▲記念対談の様子

福武教育文化振興財団副理事長の福武純子氏の寄付で岡山大学鹿田地区に完成した「Junko Fukutake Hall」(通称：Jホール)のオープニング式典が11月10日、同ホールで開催された。岡山大学の森田潔学長は、「シンボリックで人が集まるホールの完成は、本学が岡山の誇れる大学になる第一歩。ここから世界一を目指していきたい」とあいさつした。

式典には、福武氏をはじめ大森雅夫岡山市長、「SANAA」の妹島和世氏、西沢立衛氏、森田学長ら約150人が出席。福武氏から森田学長に目録が贈られ、「合理的で寛容でボーダレスな出会い、自由で愉快なコミュニケーションを誘発する場。セレンディピティを生み出す場」という福武氏の願いが込められた銘板の除幕を行った。人と人との素晴らしい出会いを意味するという「セレンディピティ」は、同ホールの根幹を為す願い。ベネッセホールディングス取締役会長の福武總一郎氏が「これからの岡山大学へ期待する事」と題して講演したほか、福武純子氏と森田学長、妹島氏、西沢氏による記念対談、岡山大学病院の肺移植チーフ・大藤剛宏准教授の講演があり、出席者は熱心に聴講した。

言語カフェ「L-café」 来場者が1万人を突破



イムでは、留学生や日本人学生が森田学長らを囲んで英語で積極的に交流した。



言語学習や異文化交流を行うことを目的に2013年5月、岡山大学津島地区に開設された言語カフェ「L-café」の来場者が1万人を突破したことを記念し10月23日、「L-café来場者1万人おめでとうParty」が同所で開催された。

森田潔学長や阿部宏史教育担当理事をはじめ、留学生や教職員ら約60人が参加。森田学長が、「さまざまな国の学生が学びを共有し、世界の知が集結する場となることを期待している」とあいさつし、1万人目の来場者の谷脇理史さん(経済学部1年)に記念品を手渡した。日ごろ「L-café」を利用する学生らは、合言葉「Don't be shy」と書かれたTシャツを着用し、授業や課外活動で「L-café」をアピール。イベント後半のAfternoon teaタイムでは、留学生や日本人学生が森田学長らを囲んで英語で積極的に交流した。

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

9 September

9日 大学院医歯薬学総合研究科の氏家良人教授が「救急医療功労者厚生労働大臣表彰」を受賞



12日 タイの教育関係者らが教育学部附属学校園を視察



17日 カプタナス「Junko Fukutake」ラソの工事安全祈願祭を挙

20日 教育開発センターは、学修者の能動的な学修への参加を取り入れたアクティブ・ラーニングを推進するため「桃太郎フォーラムXVI」を開催

20日 ベトナムフエ大学で岡山大学フエ大学院特別コース第7期生入学式を挙

25日 ノーベル賞学者下村脩博士が来学

25日 定例記者発表を開催

30日 平成25年度秋季岡山大学学位記授与式を挙

10 October

1日 マレーシアアボラ大学の副学長らが森田学長を表敬訪問

1日 不妊治療に携わる生殖補助医療技術者胚培養士のキャリア養成、リカレント教育を実施する国際的教育研究拠点として生殖補助医療技術教育研究センターを設置

5日 厚生労働省の臨床研究中核病院に選定された岡山大学病院が臨床研究中核病院キックオフシンポジウムを開催

7日 セネガルの教育関係者が本学で理工数科目の授業研究を学ぶ研修を開始

8日 平成25年度岡山大学秋季入学式を挙

10

15日 「ケンブリッジニース特別講演」を開催



19日 「岡山大学 Alumni (全学同窓会)」を設立

19日 「ホームカミングデイ2013」を開催

21日 埋蔵文化財調査研究センターは、鹿田地区の発掘調査開始から30年を迎えたことを記念して岡山大学病院外来診療棟で同地区の出土品約30点のギャラリー展示を開催



23日 学会等が制定する賞を受賞した学生を顕彰し、勉学意欲をさらに高めてもらう岡山大学学会賞等受賞者表彰10月表彰の授与式を挙行し、学生16人を表彰

23日 言語カフェ「Cafe」の来場者が1万人を突破したことを記念して「Cafe」来場者二万人おめでとうPartyを開催

23日 定例記者発表を開催

29日 米科学誌「Science」編集者がキャリア開発をテーマに講演

30日 文部科学省の革新的イノベーション創出プログラム(O STREAM)に採択、中核拠点を金沢工業大学が担い、本学と独立行政法人物質・材料研究機構がサテライトとして分担

31日 大学院医歯薬学総合研究科の宮地弘幸教授、大学院環境生命科学研究科の木村吉伸教授、津田敏秀教授が、日本学術振興会より科研費の書面審査において「有意義な審査意見を付した審査委員」として表彰



11 November

1日 岡山大学知恵の見本市をこを開催



2日 4日 大学祭を津島地区と鹿田地区で開催

4日 17日 池田家文庫絵巻展「開国と岡山藩」(附属図書館など主催)を岡山シテアミュージアムで開催

7日 森田学長と若手教員が教育・研究等の状況について意見交換を行う「学長と若手教員との対談」を開催

7日 「津島地区総合防災訓練及び防火訓練」を実施

8日 東京都中央区民カレッジに本学が連携講座を開設

9日 地域総合研究センターは、金沢市、熊本市、岡山市のまちづくり関係者を招き、「金沢・熊本・岡山まちづくりシンポジウム」を開催

10日 「Junko Fukutake Hall」のオープニング式典を開催

21日 岡山大学病院の胡重やす子副看護師長と大川義弘副診療放射線技師長が、平成25年度「医学教育等関係業務功労者文部科学大臣表彰」を受賞



22日 定例記者発表を開催

26日 岡山大学長の任期満了に伴う学長選考会議が開かれ、森田学長を再任した。任期は平成26年4月から3年間。

12 December

1日 本学での解剖実習や疾病の原因解明のため献体された方々を慰霊する解剖体慰霊祭を挙

4日 情報統括センターが運用する情報セキュリティマネジメントが国際規格「ISMS(SO27001)」認証を取得

7日 岡山大学病院で初めてとなる脳死心臓移植を実施

研究・臨床成果

■資源植物科学研究所の森泉助教と大学院環境生命科学研究所の村田芳行教授の研究グループは、乾燥を司る植物ホルモン「アブシシン酸」が気孔の開閉運動の抑制と閉鎖運動の促進を異なる分子機構によって制御していることを解明した。米国の植物科学雑誌「Plant Physiology」に掲載。(9月・臨時記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の滝川正春教授らの研究グループは、CND2/TGFを軟骨特異的に過剰発現するトランスジェニックマウスを作成し、同マウスにおいて関節軟骨の老化が防止されていることを世界で初めて突き止めた。米国のオンライン科学雑誌「PLoS One」に掲載。(9月・定例記者発表)

■大学院環境生命科学研究所の山路代研究員と頼藤貴志准教授、大学院医歯薬学総合研究科の土居弘幸教授らの研究グループは、乳児期の授乳とその後の子どもの肥満との関連を検討し、生まれてから母乳で育った子どものほうが、粉ミルクだけで育った子どもよりも、太り過ぎや肥満になるリスクが低いことを明らかにした。アメリカ医師会の小児科領域雑誌「JAMA Pediatrics」に掲載。(9月・定例記者発表)

■地球物質科学研究センターの山崎大輔准教授とドイツ・バイロイト大学の研究グループは、地球の上部マントルを主に構成しているカンラン石中のケイ素の自己拡散の含水量依存性を調べた結果、この依存性は今まで考えられてきたよりも小さく、上部マントルの流動における水の効果は極めて小さいということが分かった。イギリスの総合科学雑誌「Nature」に掲載。(9月・臨時記者発表)

■大学院環境生命科学研究所の加藤謙司教授らの研究グループは、日本のオオムギ品種「早木曾2号」が有する早生性(早期に出穂・開花すること)の原因遺伝子がHph1Cであることを世界で初めて明らかにした。米国の植物科学のトップジャーナル「Plant Physiology」に掲載。(10月・定例記者発表)

■岡山大学病院の喜多村真治講師、大学院医歯薬学総合研究科の植野博史教授らの研究グループは、腎不全代替療法の一つである腹膜透析に対して、腹膜上皮細胞を選別・細胞移植することにより細胞治療効果が異なることを発見した。国際医療工学系の科学雑誌「TISSUE ENGINEERING PART A」に掲載。(11月・臨時記者発表)

■大学院自然科学研究科の後藤秀徳助教、久保岡芳博教授らの研究グループは、数層グラフェンの電子の性質が奇数層と偶数層とで決定的に異なることを実験的に明らかにした。米国化学会発行「Nano Letters」に掲載。(11月・定例記者発表)

■大学院自然科学研究科の野坂俊夫准教授を含む国際共同研究グループは、ガラパゴス諸島西方において深海底の掘削を行い、太平洋の海洋地殻最下部を構成する岩石(未分化はんい岩類)の連続試料を採取することに世界で初めて成功した。英科学誌「Nature」に掲載。(12月・臨時記者発表)

■大学院自然科学研究科の妹尾昌治教授らの研究グループは、マウスES細胞から作成したがん幹細胞を用いて、がん幹細胞から分化したがん細胞が、がん幹細胞自身の維持に必要であることを世界で初めて明らかにした。がん研究の国際科学雑誌「International Journal of Cancer」に掲載。(12月・臨時記者発表)

来場者と一緒に▶



▲グリークラブによるミニコンサート

岡山大学は10月19日、卒業生や地域の人を招いて大学に親しんでもらうイベント「ホームカミングデイ2013」を開催し、訪れた約1400人と交流を深めた。

岡山大学応援団総部が力強い演舞で来場者を歓迎。卒業生でフジテレビアナウンサーの山崎夕貴さんによるトークショーや洋画家・関野智子さんのアートギャラリー、グリークラブのミニコンサート、うらじゃ連「楽

交流深めた1日——。

ホームカミングデイ2013を開催

鬼(らつき)「笑輝(しょうき)」による演舞があり、来場者も一緒に踊るなど盛り上がった。メイン会場の創立五十周年記念館周辺では、卒業生らによる模擬店や留学生と交流できる「カフェ&トーク」、学生メンバーが中心の「満月BAR」といった出店のほか、ワンコイン健診ショップや各学部での公開講座やミニ同窓会など多彩な催しがあり、来場者は楽しそうに会場を回っていた。

あいさつする小長会長▶



同日、岡山大学の同窓生や在学生、教職員に加え、岡山大学の知の営みに関与したすべての方々を構成員とする「岡山大学 Alumni (全学同窓会)」が設立され、初代会長に選出された小長啓一会長は、「10万人を超える同窓生や在学生、教職員らが一丸となって岡山大学を盛り立て、大学間競争に勝ち抜くオンリーワンの大学を目指す」と力強くあいさつ。「オール岡大」で大学を支える新たな組織が誕生した。

「岡山大学 Alumni」 を設立

アラムナイ
(全学同窓会)

<http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~dousou/alumni/>



岡山大学チャンネルを開設しました！

平成25年9月、動画共有サービス YouTube に「岡山大学チャンネル」を開設しました。岡山大学チャンネルでは、大学紹介の動画や記者発表の様様を視聴することができます。今後、岡山大学の魅力を伝える動画を増やしていく予定ですので、ご期待ください。

【岡山大学チャンネル URL】

<https://www.youtube.com/user/okayamaunivpr>